

金鷹山

令和6年(2024)4月1日発行

通巻第20号

発行所 若宮八幡社社務所
〒873-0004
大分県杵築市大字宮司336番地
発行者 宮司 紀田兼宣
電話 080(5503)3488

金鷹山 若宮八幡社 検索

神社公式ホームページ開設しております。御覧ください。
Instagramはじめました。御覧ください。

祝祭日には国旗を掲揚致しましょう



篤志家から奉納された若宮広場入口の大看板

御田植祭中止のお知らせ
四月六日(土)に予定されておりました「御田植祭」は
諸般の事情により中止とさせていただきます

◆社報「金鷹山」第二十号(特別記念号)の目次

- ◆御田植祭中止のお知らせ(1頁)
- ◆総代長挨拶・雅楽の勸奨・演奏会のお知らせ(2頁)
- ◆若宮八幡社奉斎会設立について(3頁)
- ◆昨秋からの神事報告(4〜5頁)
- ◆篤志奉納のご報告について(5頁)
- ◆神社の歴史と文化財紹介(6〜7頁)
- ◆例大祭神賑行事の勸奨について(7頁)
- ◆これからの神事予告と編集後記(8頁)



第5号



第4号



第3号



第2号



第1号



第12号



第11号



第10号



第9号



第8号



第7号



第6号



第19号



第18号



第17号



第16号



第15号



第14号



第13号

若宮八幡社 総代長 挨拶

総代長 矢野守光



昨年の四月一日付で、若宮八幡社の責任役員・総代長の重職に就任致しました。矢野守光と申し上げます。

宮司区次郎丸の地にて、生を享け、学業を終えてからは警察官に奉職の為、大分県内の各地を務めておりました。が、定年を機に地元宮司区に腰を据えるべく帰郷しました。

その後、地元宮司区の運営に貢献するべく健康推進委員や宮司区長をお務めさせて頂いてから、昨年の四月に多くの方々のご推挙を賜り、若宮八幡社の大前に於きまして、責任役員・総代長就任の奉告祭を行い、紀田宮司からの委

嘱状を拝戴いたしました。就任以来、一年が経過し、ようやく若宮八幡社の神事や打合せをはじめとする奉仕内容がわかかって参りましたが、これからは宮司区長を務めた時の経験をもとに、紀田宮司を助けながら、神社の護持運営に奉仕して参る所存です。

杵築市の人口も少しずつ減少し、他の自治体同様に少子高齢化の波が押し寄せており、当社の大分県無形民俗文化財である「御田植祭」が昨年度に続き、中止の已む無きに至りましたこと、重大な懸案事項と認識し、来年度に御田植祭を復興するためにも、御

田植保存会の地元中津屋区・北杵築地区また宮司区をはじめ旧杵築地区と更には学校等の団結した組織を立ち上げて、永年に亘る伝統文化の維持に励んで参ります。

神社界をはじめ、日本の諸事情も大変な時期を迎えておりますが、若宮八幡社のみならず近隣また日出町・山香町の神社総代さんと情報を共有しながら、地域神社の発展更には郷土杵築市の繁栄のために尽力して参り度存じますので、氏子崇敬者のご支援とご協力とを何卒よろしくお願い申し上げます。総代長としてのご挨拶を一言申し上げます。

蓬萊雅楽会では、毎月2回土曜日の午後、「雅楽・がく」のお稽古を開催しており、氏子崇敬者の参加を承っております。

毎年、秋の満月の夕刻に「観月祭・かんげつさい」を斎行するために、練習生と共に、神事で奉納演奏する曲目を課題として、お稽古に励んでおります。

また紀田宮司は、数年前に亘り「浦安の舞」の研修会

に参加しており、今後舞の習得が出来ましたら、近隣の女の子を対象とした「浦安の舞研修会」を開催する予定です。

〔若宮八幡社雅楽のお稽古〕
○月2回土曜日の午後実施
○龍笛(りゅうてき)のお稽古
○高校生以上が対象ですが、会費は無料ですが、プラスチックの笛を購入下さい
○平日ほかの日程も個別に承りますので相談下さい

若宮八幡社神職・総代名簿	
宮司	紀田兼宣
責任役員	矢野守光〈宮司区〉 宮司、馬場尾、守末、中ノ原、菅尾
責任役員	河野秀則〈西溝井区〉 西溝井、二ノ坂
総代	本多泰久〈宗近区〉 宗近、錦江、杉山、東下司、西下司、下原、中平
総代	井上 剛〈南台西区〉 南台西、南台東、北台、西上、仲町、天満、弓町
総代	木本武雄〈塩田区〉 塩田、錦城、北浜、中央、城山、谷町、魚町、据場
総代	小田 博〈古野区〉 古野、西新町、札ノ辻、北祇園、南祇園、煙硝倉
総代	渡邊勝富〈大片平区〉 大片平、船部
総代	山本英雄〈東溝井区〉 東溝井、中津屋
総代	下枝四郎〈鴨川区〉 鴨川、岩谷

平安時代から続く伝統文化「雅楽」

「龍笛」一緒に学びませんか？ 個別のお稽古も承ります

若宮八幡社では、毎月2回土曜日の午後、「雅楽・がく」のお稽古を開催しており、氏子崇敬者の参加を承っております。

毎年、秋の満月の夕刻に「観月祭・かんげつさい」を斎行するために、練習生と共に、神事で奉納演奏する曲目を課題として、お稽古に励んでおります。

また紀田宮司は、数年前に亘り「浦安の舞」の研修会

に参加しており、今後舞の習得が出来ましたら、近隣の女の子を対象とした「浦安の舞研修会」を開催する予定です。

〔若宮八幡社雅楽のお稽古〕
○月2回土曜日の午後実施
○龍笛(りゅうてき)のお稽古
○高校生以上が対象ですが、会費は無料ですが、プラスチックの笛を購入下さい
○平日ほかの日程も個別に承りますので相談下さい



観月祭

蓬萊雅楽会定期演奏会のお知らせ(六月一日 大分市平和市民公園 能楽堂にて)

紀田宮司も所属します雅楽演奏団体である蓬萊雅楽会(大分市春日神社)の演奏会を、左記にてご紹介致しますので、拝観ご希望の方は紀田宮司までご連絡下さい。

【演奏曲目】
管絃 黄鐘調 音取(ねとり)
越殿楽(えてんらく)
海青楽(かいせいらく)

舞楽 蘭陵王(らんりょうおう) 落躰(らくそん)
管絃 平調 越殿楽(えてんらく)

〈蓬萊雅楽会設立三十五周年記念演奏会〉
○日 時 六月一日(土)
午後二時 開場
午後三時 開演
(午後四時三十分 終演予定)

○場 所 大分市 平和市民公園能楽堂
(下記のアクセス参照)

○入場料 無料(自由席)
四月十六日から無料チケットを配布しますので、ご希望の方は紀田宮司までご連絡下さい





男山の遠望

若宮八幡社奉斎会設立について

石清水八幡宮由緒と奉斎会入会の勧奨

【石清水八幡宮のご紹介】

【御祭神】

○中御前 誉田別尊(応神天皇)

○西御前 比咩大神

○東御前 息長帯比賣命(神功皇后)

【御由緒】

平安時代初め、清和天皇の貞観元(八五九)年、南都大安寺の僧・行教は宇佐神宮に籠り、八幡大神の『吾れ都近き男山の峯に移座して国家を鎮護せん』との御託宣を賜り、同年男山の峯に御神霊をご奉安申し上げたのが起源です。

以来、国家鎮護の杜として皇室のご崇敬は益々厚いものとなり、伊勢の神宮に次ぐ第二の宗廟とも称され、明治の初めには官幣大社に列せられました。

境内には、若宮八幡社と同じ御祭神を祀る「若宮社」をはじめ、紀田宮司家の始祖である武内宿祢を祀る「武内社」なども鎮座されております。

【若宮八幡社奉斎会設立の経緯について】

「若宮八幡社奉斎会」は、神社御鎮座以来の信仰・歴史・伝統を守り、所蔵の文化財を後世に伝え、温故知新の精神を以て、神社の興隆を図るために必要な事業を計画し、実施することを目的として設立するべく諸準備を取り進めております。

本会は、杵築市にお住まいの方のみならず、市内外を問わず国内の方全てを対象として入会を募るもので、若宮八幡社を崇敬される方ならどなたでも入会可能で、物心共々に若宮八幡社をご支援戴くために、この度設立を目指しております。

下記に若宮八幡社奉斎会の詳細及び今後の計画に記載させて戴きますので、ご高覧を賜りますと共に、ご理解を戴きまして氏子崇敬者各位のご入会を心よりお待ちしております。上げる次第でございます。

〈若宮八幡社奉斎会入会の照会先〉
紀田宮司携帯080-5503-3488まで



石清水八幡宮



石清水八幡宮摂社 若宮社

【奉斎会の種別及び待遇について】

○正会員 (年額五千円)

本会の目的に賛同する個人・企業団体

○家族会員 (年額二千円)

本会の目的に賛同する正会員の同居家族

- ①入会した会員には、会員証を交付します
- ②会員の芳名録を本殿内に納め永久に保存します
- ③会員個人の誕生日・または企業団体の設立月に「お札」と「お守り」をお届けします
- ④朝御饗祭で会員の安寧を祈願します
- ⑤夏越大祓・年越大祓にご案内致します
- ⑥社報「金鷹山」をお届けします



奉斎会会員証



お札を会員にお届けします

【今後の取り組みの計画について】

今後、神社関係者による「若宮八幡社奉斎会」設立発起人による打合せ会を数回に亘り開催し、七月に予定する奉斎会設立大祭に向けた準備に移行します。

元宮である京都石清水八幡宮摂社の「若宮社」(御祭神 仁徳天皇)の祭典日である七月十八日に近い日程を調整して、毎年奉斎会大祭を斎行し、併せて総会を開催する予定です。(当社の御祭神も仁徳天皇です)

設立大祭後の総会に於きまして、予算案・事業計画案の審議また役員会の組織編成案などの審議を行い、以降は若宮八幡社の外郭団体組織として、物心共々のご支援とご協力をお願い致します。

本会の目的に賛同し、入会のご希望をされた各位には、手続き書類をお届けし、また設立大祭のご案内を申し上げますので、ご出席をよろしくお願い致します。

尚、奉斎会設立大祭の報告と、就任された役員のご紹介また会長のご挨拶などは、次号の社報「金鷹山」第二十一号で行いますので、その旨「了」承下さい。



会員の芳名録

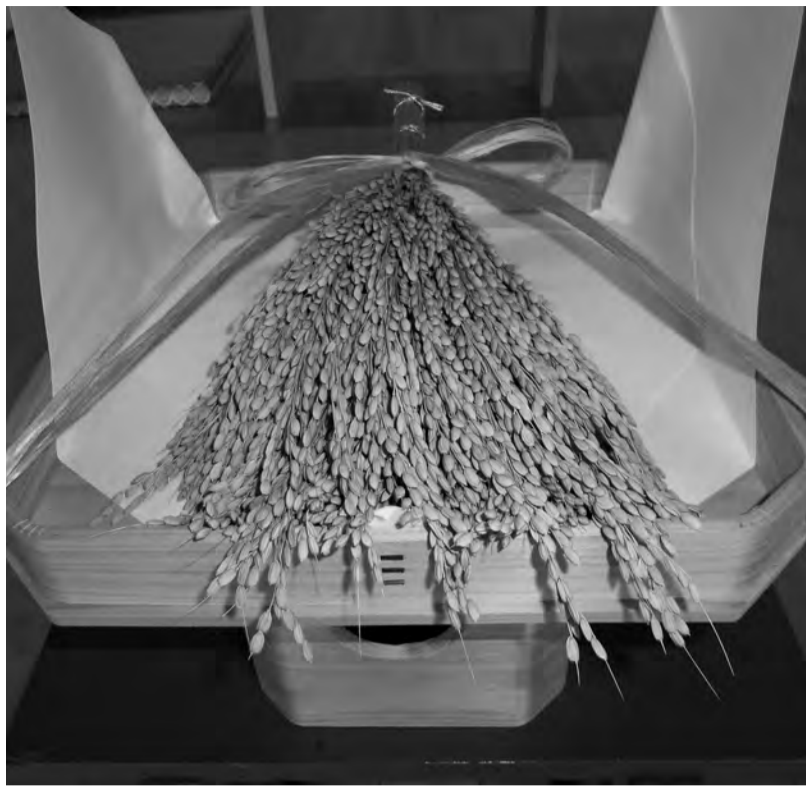
昨秋からの 神事報告

新嘗祭・例大祭・正月初詣のお供え物の報告 新たに「追儺祈願」を始めました

昨年の秋、十一月二十三日(勤労感謝の日)に斎行された「新嘗祭・いにいなめさい」、十二月二日・三日に斎行された「例大祭・れいたいさい」、また令和六年の正月初詣と恒例の神事が、好天のもと執り行われましたこと洵に慶賀の至りに存じ上げますと共に、各神事の報告並びに奉献に対する御礼を申し上げます。

【各神事の奉献報告】

- 新嘗祭は、秋の実りに感謝申し上げる神事で、春の「祈年祭・きねんさい」と対比しているお祭りです。
- 《令和五年 新嘗祭》
- 吉水 謙二 様
 - 阿部 重徳 様
 - J A おおいた 杵築支店 様
 - ジェイエイフーズ おおいた 様
 - (有)中野酒造 様
 - 綾部味噌醸造元 様
 - とまや茶舗 様
 - 松山堂 様
 - 徳一 様
 - フンドーキン醤油 様
 - 杵築営業所 様
 - 高橋水産 様
 - 豊予農場 様
 - J A おおいた 杵築 様
 - 柑橘選果場 様
 - やまやま 様
 - (株)絆屋 様
 - 今村農園 様
 - きつき紅茶 様
 - オレンジ農園 様
 - アドバンストメディアカル 様
 - コミュニケーショングループ 様
 - 大分水産(有) 様
 - 鈴木養鶏場 様
 - 岡本商工(株) 様
 - 大黒鮮魚店 様
 - (有)ふじ環境センター 様
 - 矢野 守光 様
 - 山本 英雄 様
 - 下枝 四郎 様
 - 後藤 秀子 様
 - (株)光徳産業 様
 - 秋山 太郎 様
 - 稲員 澄雄 様
 - 紀田 兼宣 様
 - 岩尾 隆典 様
 - 越海 日典 様
 - 吉田 生二 様
 - 宇都宮 学 様
 - 矢野 泰志 様
 - 大分県神道青年会 様
 - 萱島 祥彦 様
 - 木田 賢治 様
 - 加藤 浩二 様
 - 龍堂 隆 様
 - 徳久 文生 様
 - 森 孝一郎 様
 - 守末 卓広 様
 - 高田 年春 様
 - 青柳 純一 様
 - 加藤 隆義 様



稲穂で作られた懸税

- 加藤 隆義 様
- 青柳 純一 様
- 高田 年春 様
- 守末 卓広 様
- 森 孝一郎 様
- 徳久 文生 様
- 龍堂 隆 様
- 加藤 浩二 様
- 木田 賢治 様
- 萱島 祥彦 様
- 大分県神道青年会 様
- 矢野 泰志 様
- 宇都宮 学 様
- 吉田 生二 様
- 越海 日典 様
- 岩尾 隆典 様
- 紀田 兼宣 様
- 稲員 澄雄 様
- 秋山 太郎 様
- (株)光徳産業 様
- 後藤 秀子 様
- 下枝 四郎 様
- 山本 英雄 様
- 矢野 守光 様
- (有)ふじ環境センター 様
- 大黒鮮魚店 様
- 岡本商工(株) 様
- 鈴木養鶏場 様
- 大分水産(有) 様
- アドバンストメディアカル 様
- オレンジ農園 様
- きつき紅茶 様
- 今村農園 様
- (株)絆屋 様
- やまやま 様

十二月二日(土)と三日(日)の二日間に亘り、若宮八幡社最重儀である「例大祭」が斎行されました。

《令和五年 例大祭》

J A おおいた 杵築支店 様

池坊別府支部 様

森 昭 様

田邊 勲 様



昔は一週間に亘り例大祭が斎行されており、その間は日本三大「牛馬市」をはじめ、相撲の巡業・サーカス・自衛隊の展示等もあり、境内は賑やかでしたが、今は2日間限定した神事として、初日に例大祭神事に引き続き、神様を神輿にお遷し申し上げます。

てからの神輿渡御(ときよ)・お下りが行われ、午後には年田神楽社中による「みさき神楽」が奉納されました。

2日目には午後、斗初穂奉納祭に引き続き、神輿渡御(ときよ)・お上り神事が行われ、2日間に亘る例大祭も無事に取り納められました。

神輿渡御については、宰領(お供者の代表者)会を開催し、一同慎重なる審議を行い、また神輿の担ぎ手として宮司区の方にも加勢を戴きましたこと厚く御礼申し上げます。

神賑行事として、池坊別府支部による生け花展示が2日間に亘り拝殿にて奉納され、神様の御心をお慰め申し上げますと共に、参詣者にも憩いのひと時を過ごして戴きました。

これ偏に神社関係者を始め、宰領各位また氏子崇敬者の皆様方のご支援の賜物と深く感謝申し上げます次第でございます。

神輿が渡御される御旅所周辺の若宮広場も2日間の例大祭期間は、寂しい様相であり、神社関係者一同忸怩たる思いではありますが、七頁にありますように、今年の例大祭は弓道大会の奉納が予定されております。

別紙の如くに若宮広場を開放し、年間を通して氏子崇敬者各位の神賑行事に使用して戴きたいと考えておりますので、ご高覧の上、皆様方からの照会を心よりお待ちしております。

令和六年の正月は、三日をはじめ好天にも恵まれ、多数の善男善女の参詣者で境内が賑わいました。年間を通して、家内安全・交通安全・厄除け・初宮詣をはじめ各種の祈願を承っておりますが、今年からは二月に「追儺祈願・おにや

- 《令和六年 正月》
- (株)杵築建設 様
- (株)光徳産業 様
- (株)民俗工芸 様
- 国東観光バス(株) 様
- 白井商店 様
- かどフラワー 様
- 林表具店 様
- 宮司区氏子中 様
- (株)山 功 様
- 税理士法人中津中央 様
- 会計事務所杵築支店 様
- 城下町会館 様
- 齋藤 肇 様
- 宇都宮 学 様
- 工藤真起子 様
- 門 熙 様
- 本多 泰久 様
- 田邊 勲 様
- 紀田 兼宣 様
- 田邊 文夫 様
- 財前 孝行 様
- 守末 卓広 様
- 鷹森 廣子 様



池坊別府支部奉納 生け花展示



追儺祈願

らい」も行うこととなり、写真のように祈願の後に、追儺板(ついないた)を思い切り叩いて厄を追い払い、宮司と共に豆を撒きました。祈願の時に豆まきを使用した特製の一升枡はそのままお持ち帰りになれますので、令和七年以降もこの追儺祈願を行い、多数の祈願の申し込みを承ります。



特製の節分福枡



例大祭のお下り神事

篤志奉納のご報告について

神楽笛と楽太鼓を奉納戴きました

杵築市出身の方(故人)のご遺族から篤志の奉納がありましたので紙面をもちましてご報告申し上げます。

〔奉納品〕

一、神楽笛 壹管

神楽笛は、「浦安の舞」に代表される日本古来の御神楽に奏するとき使用される笛です。

雅楽で使用されるときに吹く楽器は「龍笛」と称して、この神楽笛とは異なりますので、祭典などで神前に於いて楽を奏するときには、「龍笛」と「神楽笛」とを、式次第に応じてそれぞれ吹くこととなります。

一、楽太鼓 壹面

雅楽などを奏するときに打たれる打楽器です。雅楽の管絃は、「楽太鼓」、「鞆鼓」、「鉦鼓」の三鼓で打楽器が構成されており、その打ち物を奉仕する三人が演奏会などの事前に行うことが、現在の「打ち合わせ」の語源とも言われております。

この度、この神楽笛と楽太鼓が奉納されたことにより、当社で観月祭を行うに当たり必要である「雅楽器」は、全て取揃えられましたこと洵に忝く、ここに厚く御礼申し上げる次第でございます。

当社では、右記のような篤志は年間を通して承っております。



奉納戴いた楽太鼓



奉納戴いた神楽笛

第20号特集記事

神社の歴史と文化財紹介

神社にゆかりある物集高見
大正6年の紀田兼之翁の社務日誌

明治のマイナンバーカード
当社最古の長祿年間の棟札



参道に立つ高見の和歌の石碑

右の掛け軸は、国学者であり、文学博士でもあった「物集高見」翁が揮毫されたもので、祭典に奉仕するものは、まず以って神様の御心に叶うよう一所懸命に務めるべきであると諭されております。

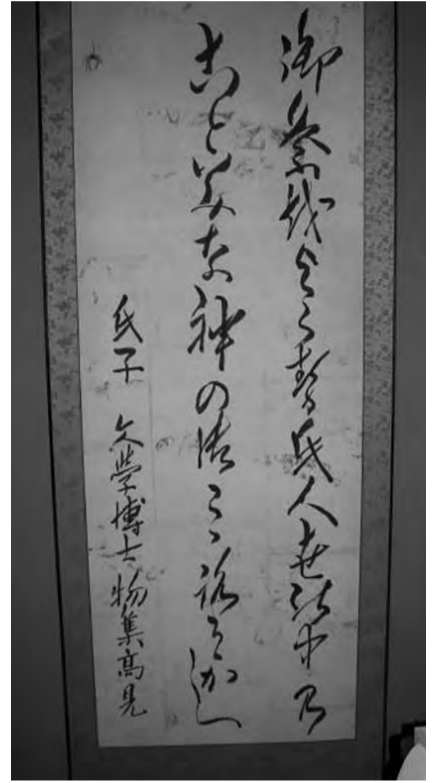
これは、鎌倉時代の第十四代順徳天皇が著された「禁秘抄・きんぴしよう」で、宮中の有職故実などをお定めになられた折りに、「先ず神事 後に他事」と諭されており、そのお考えと相通じるものがあると

思われます。左の石碑は、掛け軸を基に建立された碑文で、参道に立つておりますので、参拝者にもご覧戴くことができます。

若宮八幡社の年間の神事に携わる宮司をはじめとする神職及び神社総代は、「先ず神事 後に他事」を肝に銘じて祭典の諸準備は勿論のこと、祭典当日更には直会また事後の片付けに至るまで一所懸命にお務めさせて戴いて

御祭をよくせ氏人世の中の
ことみな神の御こころぞかし

氏子文学博士 物集高見



社務所にある物集高見の掛軸

裏面には、氏子札を発行した年月日と当時の若宮八幡社の祠官(宮司以外の神職)である倉成直幸氏の署名捺印が見受けられます。マイナンバーカードが完全普及に至らない今の世ですが、明治の初めにこのように氏子札を管理していた先人の智慧には驚かされるばかりです。

右の写真は、「氏子札」と呼ばれるもので、令和風にならば、「明治初めのマイナンバーカード」のような意味で作製されたようで、氏子の方から奉納されました。江戸末期までは、お寺の管理で氏子(檀家)を整理しておりましたが、明治時代になって神仏分離政策をとる明治政府の意向により、氏子(檀家)の整理を神社が行うことになったことを機に、調製したもので、概ね名刺の大きさになります。

表面には、「杵築 若宮八幡社氏子 ○○○○」と真ん中に大きく記されており、その右側に世帯主の氏名と本人との間柄、左側に本人の生立ち・生年月日等が記載されております。

右の写真は、「氏子札」と呼ばれるもので、令和風にならば、「明治初めのマイナンバーカード」のような意味で作製されたようで、氏子の方から奉納されました。江戸末期までは、お寺の管理で氏子(檀家)を整理しておりましたが、明治時代になって神仏分離政策をとる明治政府の意向により、氏子(檀家)の整理を神社が行うことになったことを機に、調製したもので、概ね名刺の大きさになります。



氏子札

第三十一代宮司紀田兼之(かねゆき) 現宮司の曾祖父(翁)は、社務日誌(毎日の神社奉仕の記録)を細かく残されており、その中から大正六年の一年間に亘る記録を抜粋ながらもご紹介いたします。

大正六年
一月一日 歳旦祭
中祭の例により献備す。

元社掌生地冬至氏より宮中四方拜、元始祭、天長節の図柄物三幅奉納せり。

二月十八日 祈年祭

大祭なれば、十一台の献備を為す。本日は速見郡長(熊谷頼太郎) 随員二名を随へ奉幣使として参向。

三月十八日 末社

和漢將軍社例祭につき、祭組の人々参集、俵楽五人出仕、祭典を施行せり。

四月七日

初卯祭を施行。御田植の式あり、午前中雨の為参詣者少なし。

十月十七日

神嘗祭に付き祭典を施行す。本日当社社殿修理工事の件にて協議することあり。

十二月一日

大祭に付き社殿を装飾す。午前十一時三十分奉幣使として速見郡書記丸尾氏随員を随へ参向。杵築町長・北杵築村長も参拝せり。

十二月二日(六日)

大祭中につき、神職、総代出社。

十二月七日

祭典終了の日に付き、神職、総代参集、祭典中の収支金計算を為す。

十二月十日 新嘗祭

杵築尋常高等小学校職員、生徒引率参拝。

十二月三十一日 大祓式



御座船 八幡丸

江戸時代に藩主が参勤交代の折りに乗船した御座船「八幡丸」です。実物を縮小したものですが、現在は杵築市に寄託・展示して広く来杵の方にご覧戴いております。



神社の歴史を知る上で欠かせないものに「棟札」があります。棟札は神社の造営や修繕等を行ったときに、その記録(寄進者・祭神名・上棟年月日など)を克明に墨書してある大きな木札の

ことです。当社は、杵築市の文化財に登録されている棟札を二十五枚所蔵しておりますが、その中から、一番古い記録がわかる長禄年間(室町時代)の棟札を左記にご紹介致します。

長禄二年戊寅(一四五八年)十二月十八日

(上部)

奉 假

蓋豊後國速見郡八坂下庄
旺下若宮八幡大菩薩宝殿

上 棟

長禄二歳戊寅徐月十八日良辰

(下部)

共惟 靈社假剪茆茨僅庇雨露耳将来

源 直忠

暁有与善者宜復曩構矣所祈國家

至治英檀增福若木高標之秀藤門奕葉之栄焉 院主 慧深

(書き下し文)

仮上棟し奉る

蓋し豊後國速見郡八坂下庄旺化の若宮八幡

大菩薩宝殿のこと

長禄二年戊寅徐(十二月)十八日良辰

共(みな)惟うに靈社は仮に茆茨を剪りて僅

かに雨露を庇うのみ

将来宜敷く曩の構えに復すべし

國家の至治英檀の増福若木高標の秀藤門奕

葉の栄を祈る所なり

源 直忠
院主 慧深

(口語訳)

まさしく豊後國速見郡八坂庄に鎮座して四

方にあまねく御光を放つ若宮八幡大菩薩の

神殿が長禄二年(一四五八年)十二月十八日

の佳き日に上棟祭を迎えた

長らく仮りに雨露を庇う程度の神殿であつ

たが従来素晴らしい神殿に復興するべき

と皆考えていた

國家が至つて良く治まり、藤原家一門累代

の繁栄を祈るものである

源 直忠(八代木付直忠)
院主 慧深

例大祭神賑行事の勧奨について

今年は十二月八日に弓道大会を開催します

〈令和六年例大祭神賑奉納 弓道大会〉
左記にて奉納戴きますので、ここに広告
します。

記

●奉納日程 十二月八日(日)終日

●奉納団体 杵築市弓道連盟

●奉納場所 杵築市宮弓道場

●内容 若宮八幡社の例大祭を寿ぎ
優勝者には「若宮杯」を授与
し、また入賞者各位には
夫々金銀銅の大御幣を授与
弓道連盟事務局 阿部様
もしくは若宮八幡社社務所
0978(62)3148

●照会先

右記のように、若宮八幡社の例大祭をは
じめ、年間を通して神賑行事また各種のイ
ベントを公募致します。

氏子崇敬者各位のご支援により、若宮八
幡社の恒例神事を盛り上げて下さると神様
もお慶びになれますと共に、神社関係者
一同心よりお願い申し上げます。



往時を偲ぶ若宮牛馬市

【若宮広場をイベントに開放します】

上の写真のように、以前は例大祭の折には、日本三大牛馬市が開催され、併せてサーカスや自衛隊の展示なども行われ、賑わいを見せておりました。

昭和41年に廃線となった国東線(杵築駅と国東駅を結ぶ)も、牛馬市が開催される際には、臨時的「若宮駅」が開設されるほどでした。

その後、農耕機具の発達に伴い、農作業で牛馬を使うこともなくなり、牛馬市も現在は開催されておらず、例大祭で神輿が御旅所に巡幸されても、2日間は大きなイベントもなく、神社関係者一同は忸怩たる思いでいるのが現状であります。

来たる例大祭を始めとして、年間を通して若宮広場を開放し、各種のイベントなどに使用戴ければと考えております。

あくまでも境内地である若宮広場を無料でご使用戴くことが主旨なので、イベントの準備・費用・広報などは全て使用される方に委ねることとします。

氏子崇敬者の皆様方が、ご理解を戴きますことを希いまして、若宮広場ご使用の勧奨について掲載させて頂きました。

◎問合せ先 若宮八幡社 電話0978(62)3148



御旅所のある若宮広場

これからの 神事予告



祈年祭と夏越大祓(大茅の輪くぐり)を行います 御田植祭は諸般の事情により中止とします

【祈年祭・きねんさい】

四月六日(土)午前 齋行

祈年祭は別名「としごいのみまつり」とも称されており、秋の稔り多きことを神様にお願いする神事で、秋祭り(新嘗祭)に對比する神事とされており。

尚、当日午後予定されておりました大分県無形民俗文化財「御田植祭・おたうえさい」は諸般の事情により中止となりました。

【夏越の大祓・なごしのおおはらい】

六月三十日(日)午後三時 齋行

人は皆、知らないうちに罪や穢れを犯してしまうのです。この世の中に罪や穢れの無い人は存在しません。

我々は、毎日生きていくために、命あるお米・肉・魚・野菜・果物などを食しているがなくてはなりません。これもある意味、罪や穢れと言えないのではないのでしょうか。そのため、全国の神社では半年に一回「大祓・おおはらい」を執り行い、半年間の罪や穢れを「人形・ひとがた」に託し、祓い遣って次の半年間を清々しくお過ごし戴くことを主旨としております。

当社に於きましても、来たる六月三十日(日)午後三時から「夏越の大祓・なごしのおおはらい」を執り行い、茅で調製した大茅の輪を参列者一同にて3回くぐりますので、氏子崇敬者各位のご参加を心よりお待ちしております。予約等不要です。

尚、ご家庭で飾らなくなった雛人形・五月人形・こいのぼり・結納品などを夏越の大祓当日に昇神の上、お焚き上げを厳修しますので、神事当日までに持参下さい。(但し、金具・ガラスなど燃えない部分はずして持参下さい。宮司が直接お預りしますので、事前の電話をお願いいたします。)

大分県無形民俗文化財

御田植祭及び若宮楽の奉仕者を募集します

記

○募集内容

若宮八幡社『御田植祭』(4月)早乙女の奉仕者

・小学校6年生までの女の子

若宮八幡社『若宮楽』(9月)の奉仕者

・小学校6年生までの男女

※御田植祭・若宮楽共に奉仕者が集まりましたら、祭典前に数回の練習会を行いますので、ご参加ください

○問合せ先

金鷹山若宮八幡社

宮司 紀田兼宣(きだかねのぶ) 電話 0978(62)3148(若宮八幡社)



茅の輪をくぐってからの参拝



夏越の大祓 大茅の輪くぐり



人形と車形



蘇民守り

〈編集後記〉

▲岩手県奥州市 黒石寺に千年以上続いてきた「蘇民祭・そみんさい」が、その歴史を閉じたことは記憶に新しい▲「蘇民将来」に関する話は、「備後國風土記」の逸文に記載されており、「北海より南方に旅をしていた武塔神(須佐男命)が、貧しい蘇民将来と裕福な巨旦将来という兄弟に一夜の宿を求めたところ、巨旦はこれを拒み、蘇民は快く旅人を泊め貧しいながらも持て成した▲御礼に武塔神(須佐男命)は「我れは蘇民将来の子孫である」と唱えれば子々孫々に至るまで繁栄するであろう」とお告げになった。」との故事に由来し、現在も夏越大祓には、茅の威力により健康を願う「大茅の輪くぐり」も、「蘇民将来・蘇民将来・蘇民将来…」と唱えながら行われています▲黒石寺の蘇民祭は、須佐男命を薬師如来として行っているが、その準備には、ご住職をはじめ、檀家や世話人各位の相応なエネルギーを要したものであったことは容易に想像出来ます▲祭りに参加される人たちも数日前から、昔からの伝えに遵い精進齋により清らかな身となつたうえで初めて蘇民祭に参加が可能となる▲そんな中で今回、物見遊山的に参加した放送局のMCが、当日の余りの寒さに途中で「棄権」した映像を観て、これは諸準備に携わって来られた方々に大変失礼なことだと呆れてしまった▲この度の蘇民祭中止に関しては、賛否両論あるが、我々には知るべくもない諸準備と歴史・伝統があることを鑑みれば、中止の判断を下したご住職の考えを尊重したい▲日頃からお祭りごとは、全体を十割としたら、準備が八割・神事の当日が一割・事後挨拶が一割と考えており、順徳天皇や物集高見翁が言われた「先ず神事」の精神の下、一所懸命に神明奉仕に務める日々である▲今回の蘇民祭中止の報に接するに当たり、当社で保有する大分県無形民俗文化財「御田植祭」が昨年度に続き、地元承継者ほか諸般の事情で中止となつたことは他人事とは思えず、新年度を迎えてから復興に向けて地域一体となり協議を重ねることが確認されている▲読者各位の更なるご理解とご協力とを希うばかりであります

(宮司 紀田兼宣 謹記)